



岡山県内経済情勢報告

令和5年7月26日

財務省中国財務局

岡山財務事務所

本調査にかかるお問い合わせ先
財務省中国財務局岡山財務事務所
財務課長 原田
TEL (086) 223-1131 内線 411

1. 総論

【総括判断】「緩やかに回復しつつある」

項目	前回（5年4月判断）	今回（5年7月判断）	前回比較
総括判断	持ち直している	緩やかに回復しつつある	

（注）5年7月判断は、前回4月判断以降、足下の状況までを含めた期間で判断している。

（判断の要点）

個人消費は、緩やかに回復しつつある。生産活動は、足踏みの状況にある。雇用情勢は、緩やかに持ち直している。

【各項目の判断】

項目	前回（5年4月判断）	今回（5年7月判断）	前回比較
個人消費	持ち直している	緩やかに回復しつつある	
生産活動	足踏みの状況にある	足踏みの状況にある	
雇用情勢	緩やかに持ち直している	緩やかに持ち直している	
設備投資	4年度は前年度を上回る見込み	5年度は前年度を上回る見込み	
企業収益	4年度は減益見込み	5年度は減益見込み	
企業の景況感	「下降」超に転じている	「上昇」超に転じている	
住宅建設	前年を下回っている	前年を下回っている	
輸出	前年を上回っている	前年を下回っている	

【先行き】

先行きについては、雇用・所得環境が改善する下で、各種政策の効果もあって、緩やかな回復が続くことが期待される。ただし、世界的な金融引締め等が続く中、海外景気の下振れが景気を下押しするリスクとなっている。また、物価上昇、金融資本市場の変動等の影響に十分注意する必要がある。

2. 各論

■ 個人消費 「緩やかに回復しつつある」

百貨店販売は、外出機会の増加により身の回り品や化粧品などが好調なことから前年を上回っている。スーパー販売は、物価高騰による節約志向がみられるものの、行楽需要により総菜などが好調なことから前年を上回っている。コンビニエンスストア販売は、物価高騰の影響により手頃感のあるパンやおにぎりが好調なことから前年を上回っている。家電大型専門店販売は、テレビやエアコンなどが低調なことから前年を下回っている。ドラッグストア販売は、医薬品などが好調なことから前年を上回っている。ホームセンター販売は、物価高騰による節約志向がみられることから前年を下回っている。乗用車販売は、普通乗用車、小型乗用車、軽乗用車いずれも前年を上回っている。

このように、個人消費は、緩やかに回復しつつある。

(主なヒアリング結果)

- 【百貨店】高額品が好調を維持するなか、外出機会の増加によりアクセサリなどの身の回り品や婦人服、感染症の5類移行などにより化粧品が好調なことから、売上が前年を上回っている。
- 【スーパー】物価上昇により消費者の節約志向が続いているものの、商品単価の上昇に加え、バーベキューなどの行楽需要の高まりから総菜や精肉、菓子類が好調なため、売上が前年を上回っている。
- 【コンビニエンスストア】弁当や、食事にプラス1品するサラダやデザートが買い控えられている一方で、手頃感のあるパンやおにぎりが好調となっている。
- 【ドラッグストア】風邪薬などの医薬品が好調で、品薄の状況が続いているほか、お菓子など食料品も好調となっている。
- 【ホームセンター】防犯意識の高まりにより防犯用品が好調である一方で、物価高騰による節約志向の高まりに加え、週末に悪天候が重なったことから、来店客数が減少し、売上は前年比減となっている。
- 【商店街】国内外からの人流は増加。飲食店では、夜の利用客も戻ってきており、団体客もよく見かけるようになっている。今後、夏祭りなどのイベントを開催する予定としており、売上増加に期待している。
- 【専門店】感染症の5類移行による人流増加や、商品値上げの影響から、売上は大きく増加し、コロナ禍前の水準まで戻ってきている。今後の海外航空便の増加による外国人観光客の増加にも期待している。

■ 生産活動 「足踏みの状況にある」

化学は、家電向けなどで需要に弱い動きがみられるものの、日用品向けが堅調なことから横ばいとなっている。鉄鋼は、建材向けの需要に弱い動きがみられるものの、船舶向けが堅調であることから、横ばいとなっている。電気機械は、スマートフォン向けの需要が底堅いことから横ばいとなっている。自動車は、供給制約の影響が和らいでいることから増加している。石油精製は、移動用燃料需要が堅調なことから増加している。造船は、新規受注の獲得により増加している。工作機械は、海外需要に弱い動きがみられることから減少している。

このように、生産活動は、足踏みの状況にある。

- 【化学】家電向け、中国向けの需要が低迷しているものの、日用品向けなどの需要は堅調である。
- 【鉄鋼】資材高騰の影響により建設向けに弱い動きがみられるものの、船舶向けの需要が堅調であるなか、自動車向けが回復傾向であることから前年並みで推移している。
- 【電気機械】中国の需要回復が遅れているものの、スマートフォンの新機種向けで生産量が増加しつつある。
- 【自動車】前年比では幾分か供給制約の影響が和らいでいるものの、部品調達難の状況は続いている。
- 【石油精製】外出機会の増加、航空需要の回復からガソリンやジェット燃料の需要が引き続き堅調となっている。

■ 雇用情勢 「緩やかに持ち直している」

雇用情勢は、卸売・小売業の新規求人数が増加していることから、緩やかに持ち直している。

- 【職業紹介】卸売・小売業の新規出店などから求人は増加しているものの、物価上昇による企業収益の悪化などから求人に関心度がみられることから、有効求人倍率は概ね横ばいとなっている。
- 【運輸・郵便】慢性的なドライバー不足でギリギリの人員で業務をこなしているものの、2024年問題も控えており、人手不足は一層深刻となるとみている。

■ 設備投資 「5年度は前年度を上回る見込み」 (全産業) 「法人企業景気予測調査」5年4-6月期

- 製造業では、鉄鋼で大型投資の反動減がみられるものの、自動車、繊維工業などで生産能力の増強投資がみられることから、前年度を上回る見込みとなっている。
- 非製造業では、金融・保険、小売で老朽化による店舗建替えや改装がみられることから、前年度を上回る見込みとなっている。

- 【鉄鋼】今年度は省エネ対応のための設備投資を予定しているものの、前年度に製造ラインの大型投資を行ったことから反動減となっている。
- 【自動車】新型車対応のため、金型や製造ラインの更新を予定している。
- 【繊維工業】生産能力・開発体制増強のため、工場の増設を予定している。
- 【金融・保険】店舗建替えのほか、新紙幣に対応するためATMの更新を予定している。
- 【小売】テナント入れ替えに伴い店舗改装を行うほか、インボイス対応でソフトウェア投資を予定している。

■ 企業収益 「5年度は減益見込み」 (全産業) 「法人企業景気予測調査」5年4-6月期

- 製造業では、価格転嫁の進展により生産用機械などで増益見込みとなるものの、設備投資による減価償却費の増加により化学や、海外需要の減少により情報通信機械などで減益見込みとなっている。
- 非製造業では、客足の回復により宿泊・飲食サービスなどで増益見込みとなるものの、資材価格上昇の影響を受けている建設などで減益見込みとなっている。

■ 企業の景況感 「『上昇』超に転じている」 (全産業) 「法人企業景気予測調査」5年4-6月期

- 企業の景況判断BSIは、「上昇」超に転じている。なお、翌期は「上昇」超幅が拡大する見通しとなっている。

■ 住宅建設 「前年を下回っている」

- 新設住宅着工戸数で見ると、貸家や分譲住宅などが減少していることから前年を下回っている。

■ 輸出 「前年を下回っている」

- 輸出は、品目別では一般機械などが増加しているものの、石油製品や化学製品などが減少していることから、前年を下回っている。地域別では、北米などが増加しているものの、アジアや中南米などで減少していることから、前年を下回っている。

岡山県内経済情勢報告

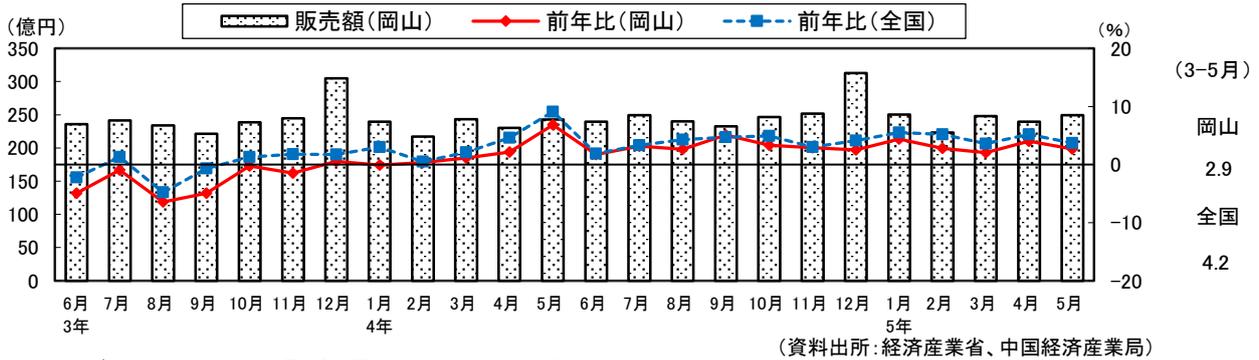
資料編

	目次	ページ
1.	個人消費.....	1
2.	生産活動.....	3
3.	雇用情勢.....	4
4.	設備投資.....	5
5.	企業収益.....	5
6.	企業の景況感.....	5
7.	住宅建設.....	6
8.	輸出.....	6

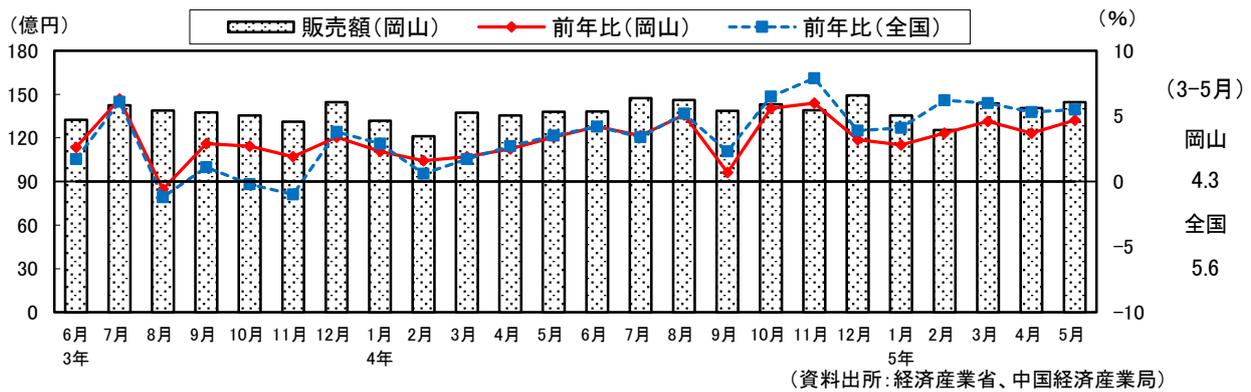
※グラフの外枠（右側）に記載している計数は、各項目の状況を分析する上で参考とした前年比、指数、倍率。

1. 個人消費 緩やかに回復しつつある

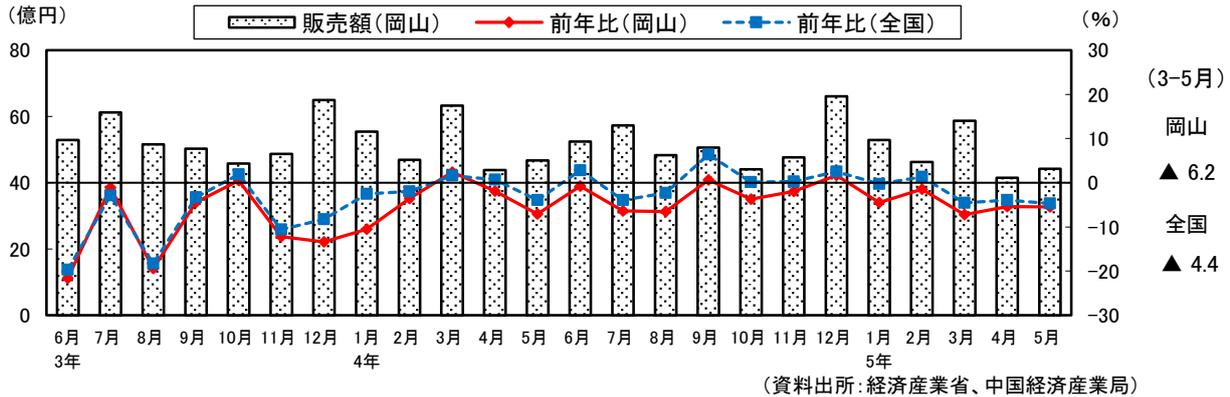
(1)百貨店・スーパー販売額(全店舗:前年比)



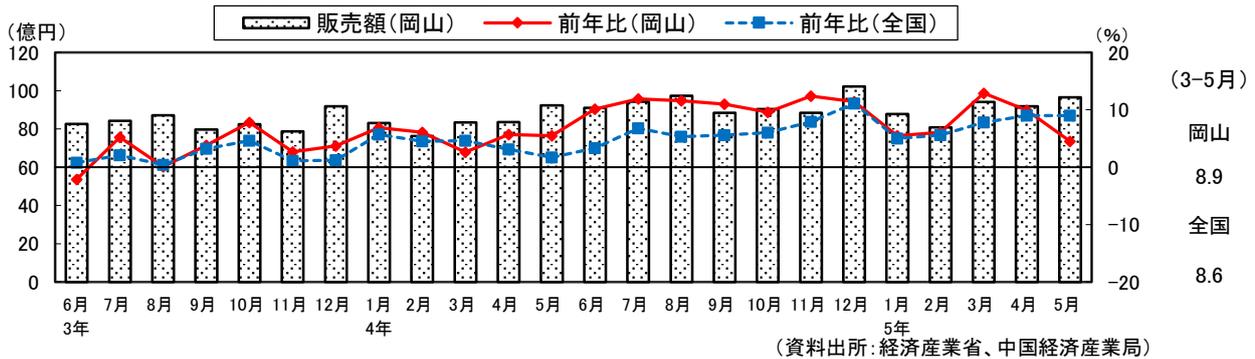
(2)コンビニエンスストア販売額(全店舗:前年比)



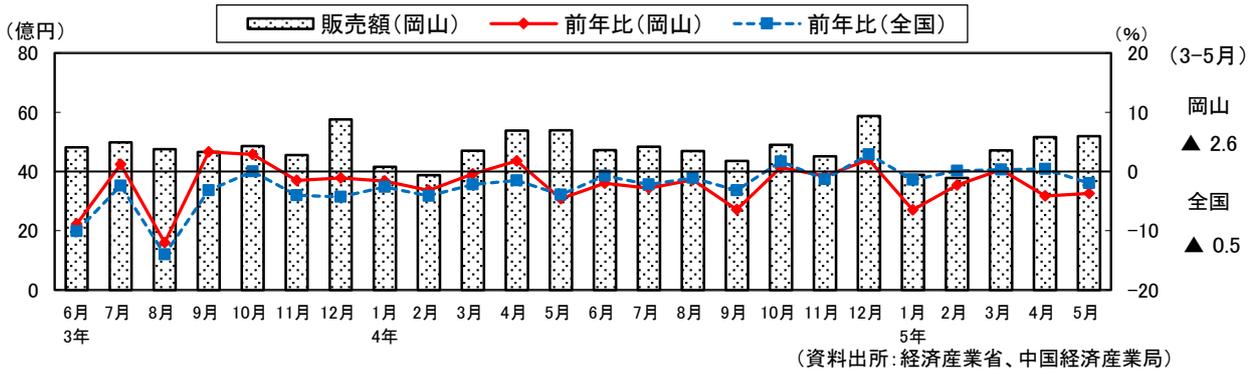
(3)家電大型専門店販売額(全店舗:前年比)



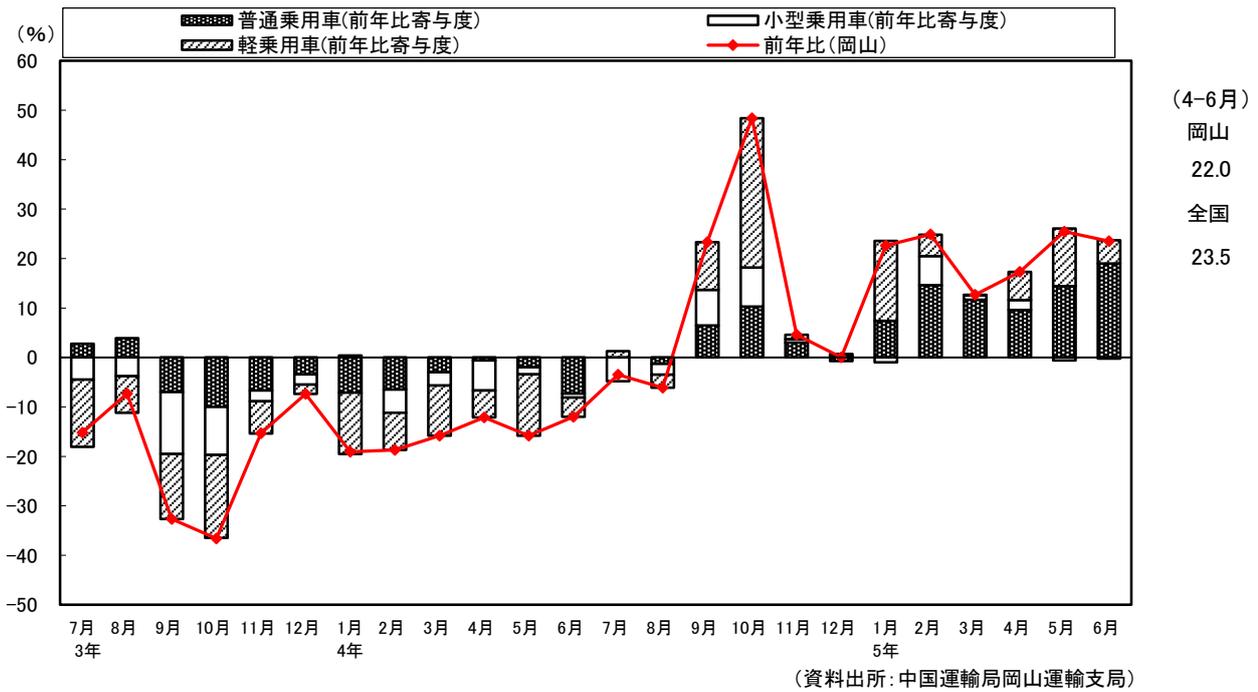
(4)ドラッグストア販売額(全店舗:前年比)



(5) ホームセンター販売額(全店舗:前年比)



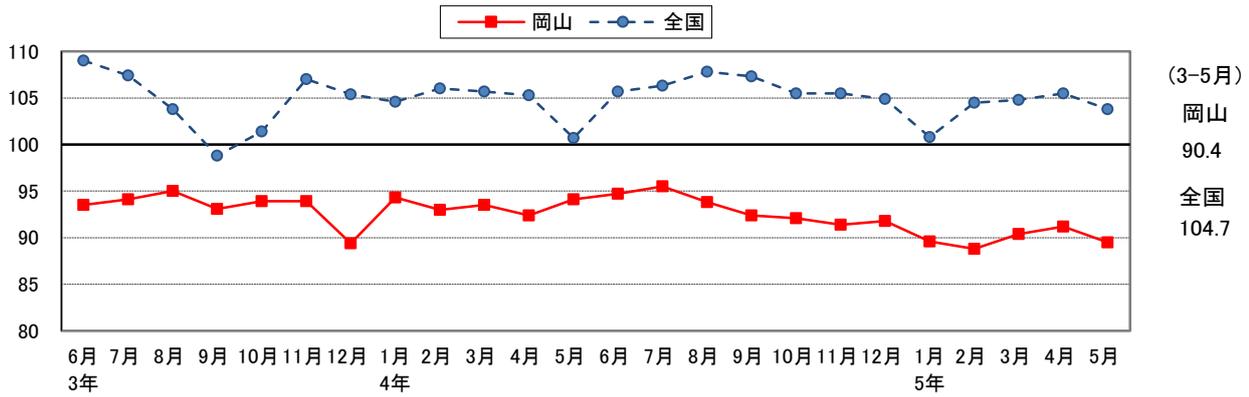
(6) 乗用車販売(新車登録・届出台数)



2. 生産活動 足踏みの状況にある

(1) 鉱工業生産指数(季節調整済)

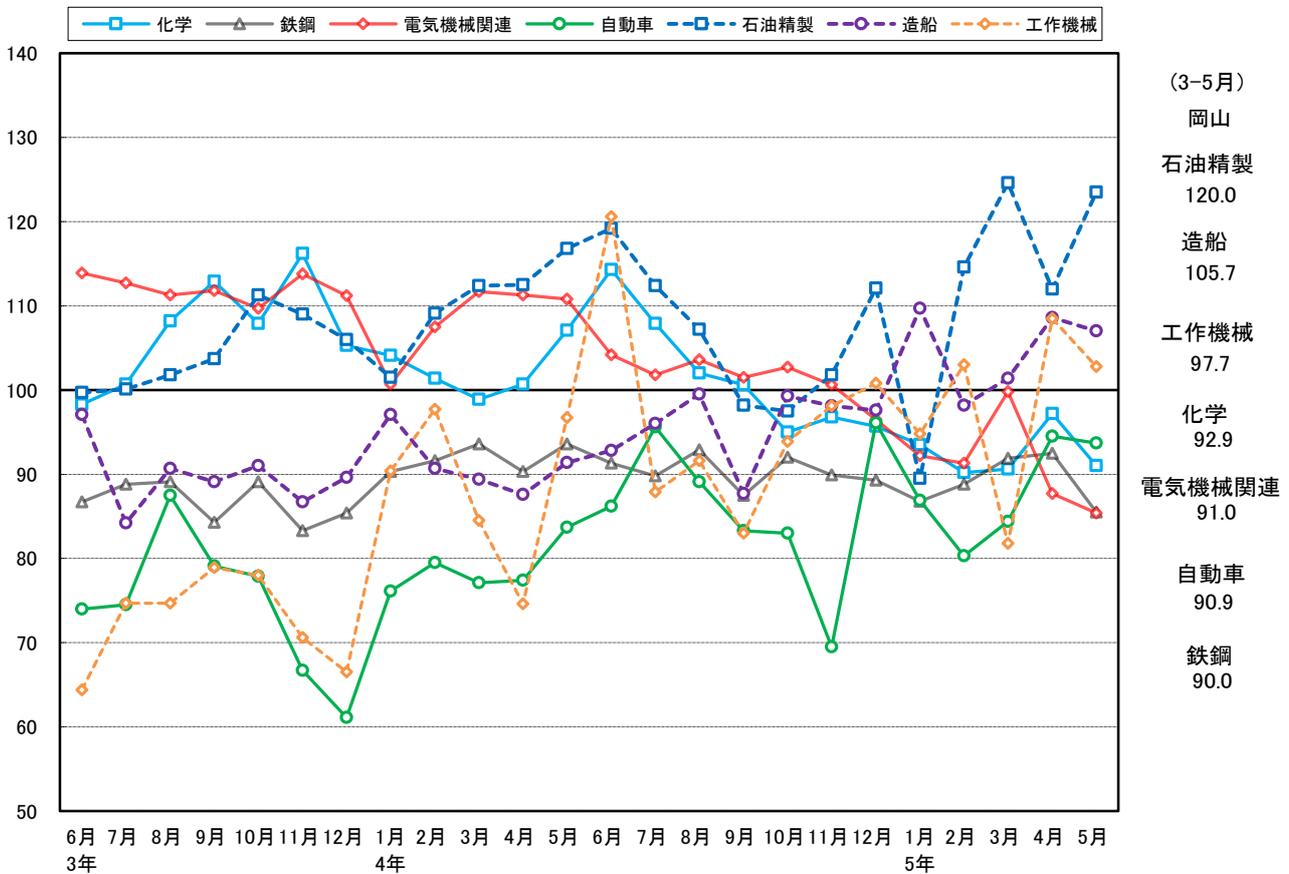
(指数)(全国:令和2年=100、岡山:平成27年=100)



(資料出所:経済産業省、岡山県)

(2) 主要産業別生産指数(季節調整済)

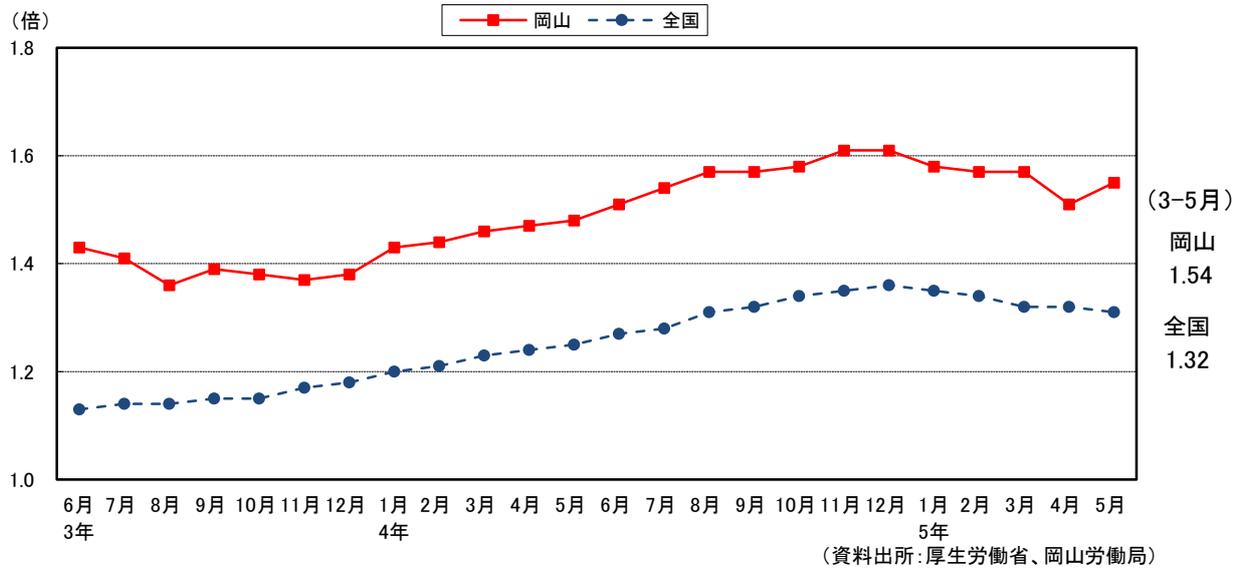
(指数)(平成27年=100)



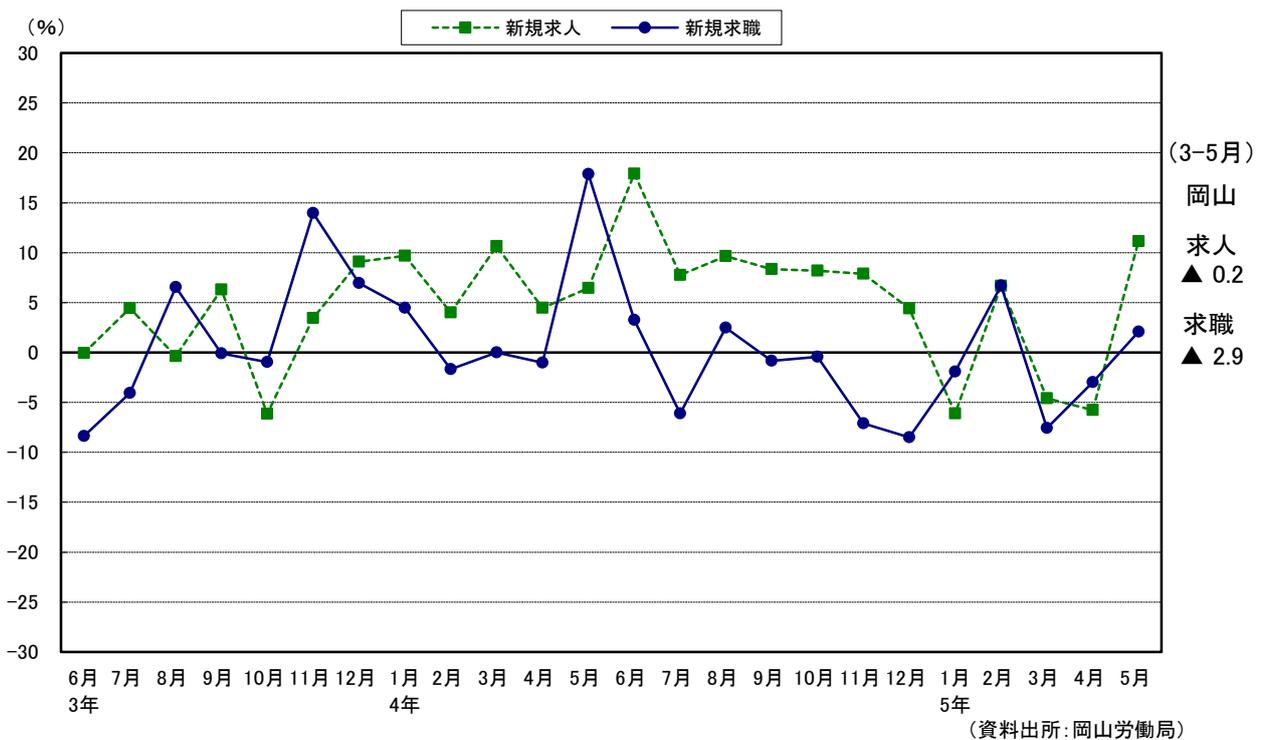
(資料出所:岡山県)

3. 雇用情勢 緩やかに持ち直している

(1) 有効求人倍率(学卒を除く、季節調整値)



(2) 新規求人数・求職者数(学卒を除く、原数値)の前年比



4. 設備投資 (除く土地、含むソフトウェア投資) 5年度は前年度を上回る見込み

(前年度比増減率: %)

設備投資	全産業		製造業		非製造業	
	()	▲	()	▲	()	▲
5年度	(46.0)	20.2	(48.7)	18.5	(32.9)	26.4

(注)当所法人企業景気予測調査(5年4~6月期)結果
()書きは前回(5年1~3月期)調査結果

(資料出所:岡山財務事務所)

5. 企業収益 (電気・ガス・水道業及び金融業・保険業を除く) 5年度は減益見込み

(前年度比増減率: %)

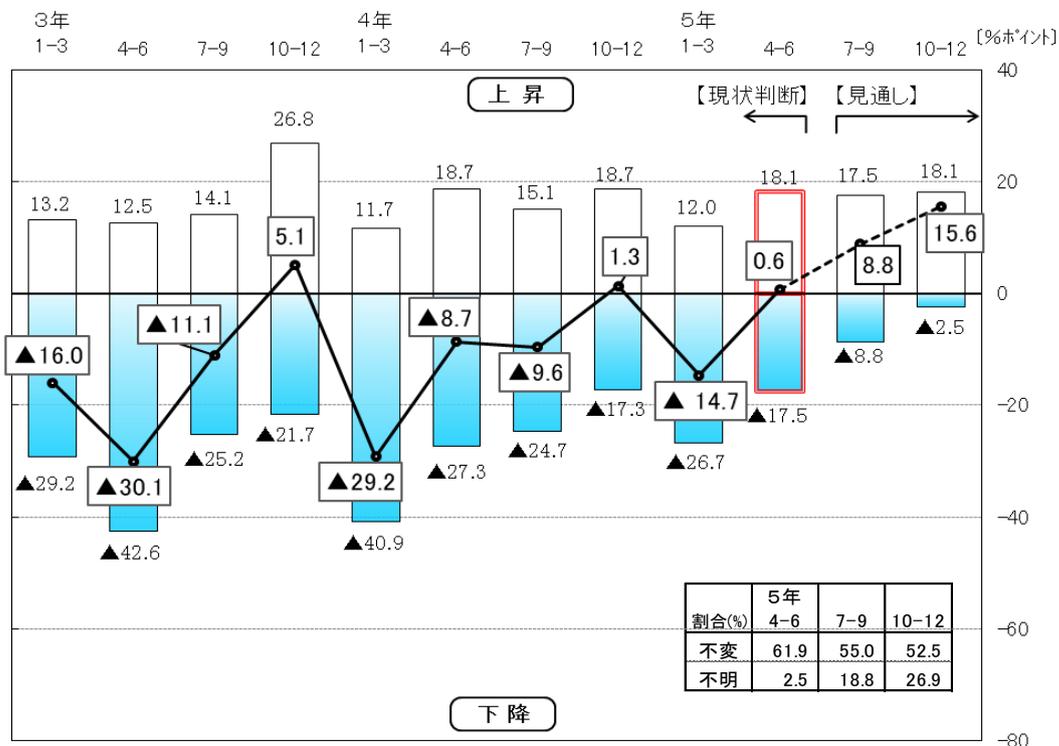
経常利益	全産業		製造業		非製造業	
	(▲)	▲	(▲)	▲	(▲)	▲
5年度	(▲20.7)	▲23.5	(▲21.6)	▲27.0	(▲12.7)	▲17.2

(注)当所法人企業景気予測調査(5年4~6月期)結果
()書きは前回(5年1~3月期)調査結果

(資料出所:岡山財務事務所)

6. 企業の景況感 「上昇」超に転じている

景況判断BSIの推移(原数値)(BSI:前期比判断「上昇」-「下降」社数構成比)

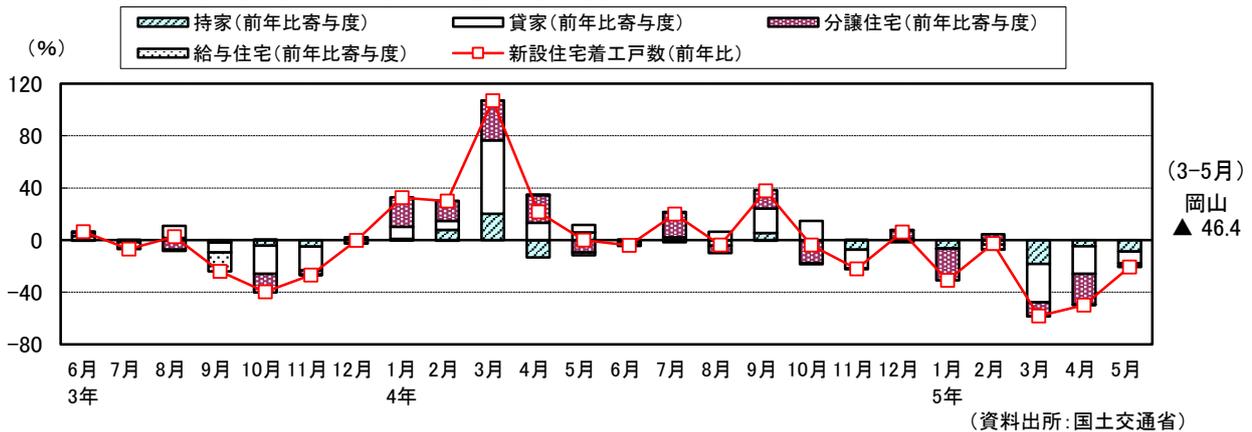


(注)当所法人企業景気予測調査(5年4~6月期)結果

(資料出所:岡山財務事務所)

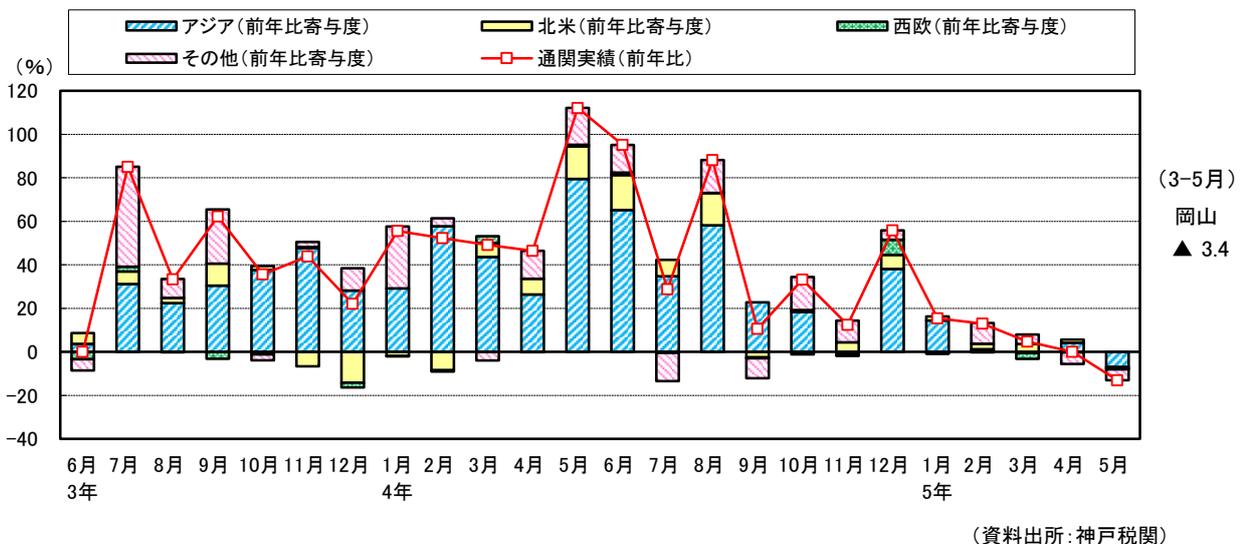
7. 住宅建設 前年を下回っている

新設住宅着工戸数(前年比及び利用形態別寄与度)



8. 輸出 前年を下回っている

輸出(円ベース)



<参考>

輸入(円ベース)

